



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第38号



旧(校章)



旧(校章)

発行日 2023年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学 菱の美会館内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dousokai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/

編集 会報編集委員会

目次

巻頭言

佐賀大学医学部 学部長 末岡榮三朗 … 1～2

大学に来てみませんか！佐賀大学の風景

学内の写真 …………… 2～3

佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会

佐賀大学同窓会会報発行部長 鐘ヶ江直雅 … 4

同窓会NOW

有朋会

実務家教員としての責務・使命、そして未来

野田 英樹 … 5

芸術地域デザイン学部同窓会

次世代に向けた挑戦！ 益田 祐輔 … 5

楠葉同窓会

楠葉同窓会交流会に参加して 平井 和徳 … 6

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会

生長 松岡 優毅 … 6

理工学部同窓会（菱美会）

佐賀大学で学び、佐賀大学で働く
Maodudul Hasan … 7

農学部同窓会

経験を活かす 石橋 桜樹 … 7

佐賀大学ホームカミングデーの開催

水田 和彦 … 8

佐賀県青春寮歌祭

第30回佐賀県青春寮歌祭に参加して

島 公二武 … 9

大学祭

第25回佐賀大学 大学祭「帆船」

大学祭実行委員長 井波豪太郎 … 10

学園祭への協賛の御礼と報告

学園祭運営委員長 山田 篤郎 … 11

ホームページの閲覧を …………… 12

佐賀大学同窓会・佐賀大学の動き …………… 12

佐賀大学同窓会報「楠の葉」の発行について … 12

同窓会からの連絡 …………… 12

ご意見メール等募集

名前・住所変更等ご連絡のお願い



佐賀とともに生きる佐賀大学を目指して

佐賀大学医学部 学部長 末岡 榮三朗 (医学・S59年卒)

同窓会会員の皆様にはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。佐賀大学医学部長の末岡と申します。佐賀大学同窓会報でご挨拶させていただくのは初めてですので、簡単に自己紹介もかねて、自分が佐賀大学に育てていただいた40年間を振り返りながら、佐賀大学医学部の現況、後輩である現在の学生および未来の後輩に向けてメッセージを送りたいと思います。

私は、1978年3月に山口県の田舎町（萩市須佐町）から佐賀市に移り住み、佐賀医科大学医学部一期生として大学生活が始まりました。佐賀医科大学医学部の使命は「良き医療人の育成」です。古川初

代学長は、「患者さんに寄り添った心のこもった医療を提供する医療人」を育成することに心血を注がれました。今でもしっかりと記憶に残っているのは、5年次から始まった臨床実習の濃さです。朝一番に患者さんの枕元に赴き、医療現場で行われている内容を実践的に学習していく教育体制でした。外科の実習では手術見学に加えて、術後管理のために深夜まで病棟で担当医と過ごすことも普通でした。今では考えられない実習形態ですが、臨床現場に出た時佐賀医科大学で学んだ内容がいかに素晴らしかったかを確認することができました。

さて、現在の佐賀大学医学部の状況ですが、医学

科103名、看護学科60名の学生さんを受け入れています。医学教育ではアクティブラーニングを展開し、PBL教育導入の先駆的の大学として全国的に注目されています。文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択され、佐賀県との医療人材育成事業である、「ドクターSプロジェクト」も始まるなど高い評価を受けています。研究面では世界的に注目される研究テーマも複数動いています。今年初めての取り組みとして、学生、研修医、基礎と臨床研究者が一堂に会して交流する「佐賀大学医学部リトリート」も開催されました。臨床活動としては、高度救急救命センターの「1秒でも早く現場に駆け付け、一人でも多くの救える命を救う」活動が展開されています。この取り組みは新型コロナウイルス感染症パンデミックにおいても、大きな役

割を担うことになりました。また手術支援ロボットの導入は、全国の大学病院の中で佐賀大学病院が一番最初でしたが、ロボット手術の範囲は広がり、患者さんのQOLの向上に大きく貢献しています。

最後に同窓生の方々、および学生さん達にメッセージを届けたいと思います。

私ども医学部は温かい心を持ち、佐賀県全体の患者さんに寄り添う医療を実践するために、一人でも多くの人材を育成したいと思っています。同窓生の方々にも色々な方面でお力をお貸しいただきたいと考え、これまで以上に同窓会員間の連携を深めようと考えております。「佐賀とともに生きる佐賀大学」を目指して、今後の佐賀大学の発展のためにご協力ご理解をいただきます事をお願いし、年頭にあたりご挨拶とさせていただきます。

大学に 来てみませんか！ 佐賀大学の風景



佐賀大学正門付近



佐賀大学正門から見た構内



大学内への入構口



学生広場と教養教育大講義室



学内の自転車道



同窓会事務局がある菱の実会館



同窓会事務局入口

令和4年度の佐賀大学と 佐賀大学同窓会との 意見交換会

令和4年10月4日(火)18時から、佐賀大学「夢の実会館」において、大学と同窓会の意見交換会を開催しました。

この意見交換会は毎年恒例で行われており、例年であれば意見交換会の後に懇親会も開催されていましたが、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行第7波のさなかであったため、意見交換会のみで開催となりました。

大学からは、兒玉浩明学長はじめ理事・副学長、各学部の学部長など13名の方にご出席いただきました。

同窓会からは、水田和彦会長はじめ各学部同窓会の会長、副会長など13名が出席し、同窓会の市場理事長の進行で、大学と同窓会の協力のあり方などについて協議を行いました。

まず、同窓会水田会長から、同窓会の目的である会員相互の親睦融和と地域とともに未来に向けて発展し続ける佐賀大学の発展への寄与に向けて、同窓会としてお役に立てるように取り組んでいきたいとの挨拶がありました。

次に兒玉学長から、ご挨拶とあわせて大学の現状の説明があり、志願倍率や就職率が九州内国立大学の中でもトップクラスであることや、佐賀大学の新たな知の拠点として「産学交流プラザ」を開設したこと、令和4年度から取り組んでいる第4期中期計画において、同窓会を含む関係者との連携により教育の質向上のために研究組織改革に取り組んでいくことなどが紹介されました。

また、出席者それぞれから自己紹介とともに現況の報告があり、大学側からはコロナ禍の中でのハイブリッド授業やデータサイエンスへの取り組みの紹介のほか、同窓会の就職支援への感謝の言葉がありました。各学部同窓会からも、いろいろな方法で学生へのキャリア支援等に取り組んでいることが紹介されました。意見交換は、あらかじめ同窓会から提出していた3つの項目を中心に行いました。

まず、同窓会、大学ともに必要となる卒業生の情報の共有化について、双方ともに必要な情報であるため、今後、学生が求めている進路に関する情報も含めて取得の方法や連携の在り方について検討していくこととなりました。あわせて、在学生が同窓会を認識するための学内でのサポートについてお願いしました。

次に、大学における生涯学習の成果について意見交換を行い、卒業生が受講しやすい講座の開設や、さらなる資格取得や高度な知識技術の習得などができる取り組みをお願いしました。大学からは、従前からの公開講座のほかに、「授業開放」として学生が学んでいる正規の授業を学生と一緒にの対面形式、またはオンラインで受講できる機会も提供しているとの説明がありました。

また、同窓会が行っているキャリア支援の評価と就職支援への結びつきについて質疑を行い、特に教員への就職支援については、同窓会で支援している教員採用試験対策講座には多くの参加があり成果が上がっているとの報告がありました。

開催後の同窓会代表役員会では、今回の意見交換会は事前に同窓会から質問事項を提出していたことでスムーズな進行ができたという評価があった一方、大学と同窓会の連携を深めていくために、定例的な会合ばかりではなく普段から交流を深めていくような関係づくりも必要ではないかという意見も出されました。

会報発行部長 鐘ヶ江 直雅（農学・S56年卒農化）



手前が大学側で、向こうが同窓会側
新型コロナウイルス感染防止のためマスクを着用し、入り口のドアは開けたままで行いました。



討議内容を熱心にメモする同窓会役員。

同窓会NOW

有朋会

「実務家教員としての責務・使命、そして未来」

大学院学校教育学研究科授業実践探究コース 准教授 野田 英樹 (教育・H4年卒)



「おっ〜、本当に大学の先生になったんだなあ〜」今年度後学期の授業科目、「初等社会科教育法」の時のことです。大講義室での授業、階段状に座る135名の学生を見上げながら、思わずつぶやく私がいきました。

4月1日、大学院学校教育学研究科授業実践探究コースの准教授として着任した私。実務家教員として、教員養成ならびに教師教育を仕事とすることになりました。私の母校でもある佐賀大学です。教育学部中学校課程社会科専攻で4年間学んだ後、教職の道へ。40歳の年、縁あって学生として大学院教育学研究科教科教育専攻社会科教育の門を叩きました。さらに縁あって、M2の年から文化教育学部附属中学校、その後、教育学部附属中学校の教諭として7年間、お世話になりました。そして、今回の着任で

す。かれこれ13年間。本当に、佐賀大学には育ててもらってきました。

教員志望者が減り、採用試験の倍率も下がる厳しい現状はあります。しかし、授業に参加している学生は素直で、やる気にあふれています。そんな学生を待っている、佐賀県の子どもたち、九州各県の子どもたち、日本各地の子どもたちを想像しながら、現在の私の責務・使命を全うしようと思っています。

2025年度の4月には、県内いずこかの小中学校へ管理職として戻る予定です。それまでの時間、学生に、佐賀大学に恩返しができれば幸いです。そして、その時には、今の学生と同じ職場で同僚として働いているかも。そんな未来も楽しみにしながら、今日も1日、仕事に励む私です。

同窓会NOW

芸術地域デザイン学部同窓会

次世代に向けた挑戦！

NTT西日本 益田 祐輔 (芸地デ・R4年卒)



NTT西日本(西日本電信電話株式会社)に入社し、NTTグループの電気エネルギー分野として再生可能エネルギーを活用した「カーボンニュートラルの実現」「電力の地産地消の実現」に向けた業務をしています。

在学時代は、N-project(次世代コンテンツの研究制作開発チーム)・げちでのたまご(コロナ禍における新入生サポーターPJ)・さだいさんぽ!(メタバース空間でのバーチャル佐賀大学)・がくせい広報委員など多くの活動を仲間と一緒に立ち上げ・活動を行っていました。これらの活動は私たちだけではなく、後輩たちに引き継がれ、現在も活動の裾野を広げています。2025年、佐賀県で開催される国民スポーツ体育大会に向けた地域活性化、次世代コンテンツ制作、佐賀県内のメディアと連携した学生によるメディア発信などがその例です。

芸術地域デザイン学部では多くの活動が行われていますが、私たちの原動力は「こんなことできたら面白そう」「変化を惜しまずに楽しくしよう」「講義を超えた挑戦をしよう」でした。ここだけ聞くと自分にはできない…と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、普段の生活で気になったことを自分なりに少し実践し発信することで誰でも挑戦できます。この挑戦はもしかすると、誰かの支えになることや社会を変えることに繋がったりするかもしれません。

卒業後の私の現在のパーパスは「通信と芸術で世界を拓く」を実現することです。次世代社会を牽引するサービスソリューションの開発・提供に向けて今後も頑張っていきます。

是非皆さんも何か新しいことを始めていきませんか？

同窓会NOW

楠葉同窓会

楠葉同窓会交流会に参加して

佐賀銀行 人事企画部 人財開発室 平井 和徳 (経済・H21年卒)



私は平成21年に佐賀大学経済学部を卒業し、佐賀銀行に入行しました。入行後は佐賀市内や福岡市内の支店で営業担当をしていましたが、今年の4月に人事企画部の配属となり、採用関係や人材育成等(行内教育)の業務に携わっています。

ここ数年は企業の採用意欲の高まりと若年層人口の減少によりかつてないほどの売り手市場と言われています。特に有名私立大学の学生の人気は高く、企業の採用担当が積極的にアプローチをかける等、人材確保に力を入れています。

私は弊行の令和5年度新卒採用の面接に携わせて頂きましたが、どちらかという和企业側が面接されているという感覚すら覚えました。私たちが就職活動をしていた頃は就職氷河期と呼ばれていましたが、その頃では考えられないような状況となっていると感じました。

そんな中、令和4年度の楠葉同窓会交流会が令和4年10月20日に開催され、学生へ対し今の仕事のやりがい、失敗談等の講話をさせて頂きました。参加してくれたのは経済学部の2年生でしたので就職活動はもう少し先の話になることから、ちゃんと聴いてくれるかなと思っていましたが、皆さんの真剣な眼差

しを見て、就職活動に対する意識の高さを感じましたし、少しでも役に立てるような講話にできたらなと思いつつ話をさせて頂きました。私が特に伝えたかったのは、学生から面接について「何を聞かれますか?」、「どういことを話したらいいですか?」等の質問を度々受けますが、面接では企業側からするとありきたりな応答を求めているので一概にはお答えできません。それよりも、着飾ることなく自分の言葉で本音を伝えてくれる方が熱意は伝わりやすいのではないかということが学生さんに伝わっていれば幸いです。今回の交流会では時間の兼ね合いもあり学生さんの考えや意見等を聴くことができませんでしたが、今後も採用関係で佐賀大学にはお伺いすることもありますので、学生さんが後悔のない就職活動ができるよう、微力ではありますがサポートさせて頂きたいと思います。

最後になりますが、この交流会は一企業の採用担当として大変有意義なものになりました。参加させて頂き、誠にありがとうございました。

同窓会NOW

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会

生長

JCHO諫早総合病院病理診断科 松岡 優毅 (医学・H28年卒)

大学恩師よりmailが来ていた。同窓会誌を書いてくれないかという依頼だった。ありがたい反面若干の戸惑いを覚えた。そう、文才に恵まれない私にとってこの純白の紙面を埋めつくすことは至難の業なのだ。弁才には到底及ばないにしろ会話での言葉のラリーには苦手意識はさほどない、しかし、つらつらと書き連ねる言葉の一人マラソンが生まれてこの方苦手なのである。もともと陸上部であり自分が走ること・他人を走らせることは容易であるのだが、いかんせん我が筆だけは一向に走ってはくれない。

才は遺伝する、という話を聞いたことがある。私自身は少し懐疑的だ。そもそも、遺伝ですべて決まってしまうならば、なんだか夢がない。せめて「才は眠っている」と信じたいものだ。「才は眠っている」という言葉を聞くと、科学の「禾」を齧っている大学院生の私には、なんとなく“遺伝子のメチル化”が想起させられる。我々の遺伝子は受精直後ではメチル化は完全に取られなくなった状態であるが、発生の過程でリプログラミングメチル化ヒストンが生まれ、それがMBDタンパク質でより強固に“安定化”によって制御されることで、環境に応じて働く遺伝子が選ばれるわけだ。私自身はその学問に精通しているわけではないし、とりわけ興味があるわけでもないが、“環境で変わる”という考え方がしっくりきて気に入っている。事実、何気ない日常でもそう感じる。

今の職場がよい例。私は4月から一人常勤病理医としてJCHO諫早総合病院に赴任している。専門医を取得してすぐの私には荷が重く感じる時もあるが、幸い週の半分ほどは教授をはじめとした病理の大先輩方が赴いてくださる。2人分のコーヒーを淹れて、仕事スタート。とりとめのない日常の話からマニアックな学術トークまでジャンル問わずお話しする諸先輩方の奥深さにはいつも頭が上らない。病理は弱拡大で俯瞰することが鉄則であるが、おそらく人生観やものの見方にも精通しているようだ。1杯のコーヒーと引き換えに、いつ

も何かしらの気付きや学びを頂いている。

昨今のCOVID-19の猛威で世の中のあらゆるものが変化した。人と人が分断され、無機質な世の中になりつつあった。そんな中で、何とか正常な生活を取り戻そうとする動きが生まれた。その一つがzoom、slackをはじめとしたオンライン上でつながることを目的としたツール。瞬く間に世に普及していった。人の叡智とはすごいものである。その恩恵に預かりこの大変な世の中でも学会参加ができ学術活動に励むことができた。高名な先生方の著書・講演を通じて私淑することは非常に大切である。しかし同時に、この制約のある状況であるからこそ、on siteで薫陶を受けられる環境がいかに貴重であるかを実感している。画面越しでは感じられないマンツーマンの環境には得も言われぬ良さ・温かさがあり、どうやら飲み会好きの私にはとてもマッチしているようだ。

何とかここまで筆が歩いてくれたようだ。このとりとめのない駄文を読んでくださった読者の集中力とやさしさには感服している。私は文章をしたためるのが下手だ。だからこそ、より丁寧に、より素直に取り組もうと努める。この姿勢は病理所見を記すときにも変わらない。才能がないと知ったときにはじめて眠った才能を呼び起こすスタートラインに立ったと言えよう。スタートラインに立った我々はそこからまっすぐに走り出せばよいのだ。-自分の無知さを知り、だからこそ知りたいと深く欲望し、それを現していく-若き日に理解しようと躍起になった内田樹氏の「無知の知」というものがほんの少し垣間見えたかもしれない。小金に色づいた稲穂の刈り入れを眺めながら嬉しさを感じるもつかの間、普段はだんまりのPHSがここぞばかりに鳴る。よし、行こう。



同窓会NOW

理工学部同窓会（菱美会）

佐賀大学で学び、佐賀大学で働く

佐賀大学理工学部プロジェクト助教 **Maodudul Hasan**
 （工学系研究科博士後期課程 システム創成科学専攻・R4年修了）

佐賀大学でプロジェクト助教として働いている Maodudul Hasanと申します。2014年にバングラデシュのクルナにあるクルナ工科大学（KUET）より電子通信工学のB.Sc.を取得しました。2019年と2022年に佐賀大学より通信工学のM.E.と Dr. Eng.をそれぞれ取得しました。

2014年から2017年まで、Huawei Technologies Bangladesh LimitedでTransmission engineerとして働いていました。私の研究対象には、Active integrated antennaとReconfigurable antenna設計が含まれます。

佐賀大学からは佐賀大学学長賞をはじめ、数々の賞をいただきました。また、ICETC2020 学生発表賞、IEEE AP-S Japan Student Encouragement Award

2019、APCAP2019最優秀論文賞などを受賞しました。

極東に位置する日本は、世界のどの国とも違う不思議な国です。美しい景色や伝統文化だけでなく、日本には礼儀正しさ、清潔さなど、私を魅了する素晴らしいものがたくさんあります。日本人の桜の美しさへの深い憧れと魅力に魅了されています。私の趣味は、日本の自然の美しさと文化を探求することです。



佐賀大学ドクターコース学位
 記授与式の日、桜の前で。

同窓会NOW

農学部同窓会

経験を活かす

三井住友トラスト・ビジネスサービス株式会社 **石橋 桜樹**（農学・R元年卒）

私は2019年3月に生物資源科学専攻を修了しました。

学生時代は浅海干潟環境学研究室に所属し、佐賀市の東よか干潟に出向いてマクロベントス(主にカニやムツゴロウ等の大型底生生物)の個体数の計測や研究室での底質の分析を行い、マクロベントスの時空間的分布特性に関する研究を行いました。

修了後は愛知県にある機械系の会社に技術職として入社しました。自身の専攻である環境や土木関連ではない就職先だったため、最初の研修ではわからないことが多く、やっていけるか不安でしたが、研修最後の発表では研究発表で身につけたスキルを活かし、上司に評価していただけるプレゼンテーションを行うことができました。研修終了後は、いきなり新規部署の立ち上げメンバーとなり、右も左もわからないところから様々な方の支えもあり業務内容を確立することができました。今になって振り返れば、学生時代に研究室に配属された直後、マクロベントスに着目した研究という新しいテーマを選び、論文を集め、調査手法を確立したという佐賀大学での経験があったため社会人1年目で情報収集やマニュアル整備をしっかりとできたのではないかと考えています。その後は部下への教育やグループの運営・管理等の経験を積み重ねていただき、結婚を機に

退職しました。

退職後はコロナ禍で転職活動を行いました。新卒のときの就職活動では経験しなかったweb履歴書の提出やオンライン面接などを乗り越え、東京にある金融系の会社で事務職として働いています。現職でも品質や個人の技量を上げていくことが求められており、前職で学んだ考え方や管理の手法を活かしながら働いています。

学生時代の研究と2つの異なる分野の仕事をやってみて感じたことは、一見全く異なるようなことでも実は共通している部分もあり、過去の経験が活かせることがあるということです。私はどのような経験も無駄にはならないと大学での経験や社会人での経験を持って強く感じています。



佐賀大学ホームカミングデーの開催

佐賀大学校友会主催「第11回佐賀大学ホームカミングデー」が、令和4年11月5日(土)に佐賀大学本庄キャンパス（教養教育大講義室）で開催されました。

佐賀大学同窓会としても、佐賀大学同窓会報「楠の葉（第37号）」での呼びかけや同窓会役員等も参加するなど、校友会と連携を取りながらホームカミングデーを盛り上げました。

当日は、イベントとして大学会館の食堂でカレーライスの提供、美術館や産学交流プラザ施設見学の企画が催され、多くの同窓生が参加されていました。

セレモニーでは、佐賀大学児玉浩明学長から歓迎の辞と近況報告として、「佐賀大学の現状と未来^{これから}について」の話がありました。2030年に向けて「志、挑戦、そして未来へ」をテーマとして、発展していきたいと様々なデータを基に説明されました。来賓挨拶として佐賀大学同窓会水田和彦会長から、ホームカミングデーの形で大学を開放し説明いただき、感謝するとともに、6学部の総合大学として充実してきた母校の発展のために、同窓会としても支援していきたい等の話がありました。

次に、講演会として地域学歴史文化研究センター 准教授 三ツ松誠先生による「大隈重信の学生時代～そのとき佐賀の教育事情～」があり、当時の時代背景や鍋島直正公の佐賀藩の教育がいかに優れていたかをわかりやすく話され、改めて教育の大切さを感じました。その後、校友会事業報告と共に、同窓生・在校生による報告会がなされ、学生支援事業（トビタテ！留学JAPAN）によりフランス留学を経験し、その経験から現在はフランスと唐津市の連携事業の会社に転職して頑張っている様子が報告されました。また、佐賀大学発ベンチャー企業を立ち上げた大学院在学中の学生による事業内容の報告がありました。いずれも、大学側の支援により大きく羽ばたいている様子が感じられました。

次に佐賀大学役員等との懇談会では、事前に提出されていた質問に答えると共に会場からの質問もあり、賑やかに会が進められました。

また、退官された先生方も多数参加されており、お元気そうな恩師の姿を拝見し学生当時を思い出す時間でもありました。

最後に、秋晴れの中、記念撮影をして終了となりました。

佐賀大学同窓会 会長 水田 和彦（農学・S51年卒）



第30回佐賀県青春寮歌祭に参加して

菱実会副会長 島 公二武 (理工・S50年卒)

佐賀県青春寮歌祭はコロナ禍で2回中止を余儀なくされたが、今回は規模を縮小し、コロナ対策を取りながらの開催となった。事務局も苦渋の判断であったろう、寮歌・応援歌とその振り付けは高齢者にとっては忘れてしまいがちであり、守り続けるためにも開催は必要であろう。私もコロナ禍の影響が無ければ支部会・地区会・役員会や卒業謝恩会で年に5・6回は披露するので忘れないが、丸3年のブランクがあり、我が佐賀大学同窓会も不安の中やっとなこと思い出して慌てて練習したしだいである。

例年は25校前後の参加だが今回は14校であり、また、各校とも本部からの応援は少なく、参加人数も例年よりかなり少なかった。九工大明専会はそう遠くは無いためかほぼ例年と同じ参加だった。名城大学は例年羽織・袴姿の老齢の方の名城節「ここは尾張か」を舞う姿は無かった。東京農大の大根踊りも少人数であった。我が佐賀大学も合唱団コーロ・カンフォーラには出場依頼は行わなかった。例年最後を飾る早稲田大学は第二校歌と呼ばれている村田英雄の「人生劇場」の口上入りは毎回楽しみにしているが、今回は無くて残念であった。こうして寮歌祭は幕を閉じた。終了後懇親会はいつものいわしの天ぶら・竹輪の肴にビールと地酒と須古寿司であった。皆事務局の大宅公一郎氏に感謝の言葉を述べた。コロナ禍が早く収まって以前のような賑々しい寮歌祭になってもらいたいものだ。

参加者全員で歌うプログラム“みんなで歌おう”がある。これは旧制高校の歌の中で愛唱され続けてきた曲ばかりである。一高の「嗚呼玉杯に」や三高の「琵琶湖就航の歌」と肩を並べる「吉井浜思い出の歌」がある。この曲は佐高水泳部歌であり、当時佐高水泳部は糸島郡福吉の大法寺で合宿を行い全国制覇を10回近く成し遂げている。この歌は福吉の女性合唱団などで歌い継がれ、今でも福吉中学校の文化祭で合唱されている。歌詞の「海士の乙女」とは部員が合宿の合間よく通ったゆで卵を売る駄菓子屋のきれいな娘がモデルであるという。また歌詞の「姫島と野村の尼」とは野村望東尼で歌人、黒田藩勤皇の女傑で西郷隆盛や高杉晋作らと国事に奔走、姫島の獄舎に繋がれたが高杉晋作によって救出されたという。また大法寺(禅寺)には大きな銀杏の木があり、住職夫妻には子供が無く、合宿に来た水泳部員たちを我が子のようにかわいがったという。このようなことが楠葉同窓会発行の「歌は流れる」に綴られている。一読されれば先輩達の偉業がわかり、愛学心も湧いてくるのでは。

数年前、菱実会会長の代理で大分支部総会に参加し、巻頭言と「南に遠く」や「楠の葉の」を披露したことがある。帰りは久大線を利用したが、半日近い時間を要した。その道中、卒業論文と一緒に取り組んだ原口勇夫君の事を思い出していた。彼は不知火寮生であり、卒業謝恩会の後で寮に案内してくれた。酷い寮で真冬でもストーブや電気こたつが使えないという。その原口君は巻頭言と寮歌「南に遠く」を4年間歌い続けているはずだ。一緒に「南に遠く」を歌い踊ってみたいと思った。帰宅して早々同窓会名簿を調べて、連絡してみたがすでに住所は変わっていた。また卒論や修論に付き合い、きめ細かく指導して戴いた吉野英弘先生の訃報を寮歌祭前日に知り、寮歌祭当日葬儀に参列した。このとき同窓会名簿がこんなにも重要なものだとつくづく感じた。

寮歌は老化を駆逐しつつ、残りの人生を豊かにしてくれる。そんな思いで皆が寮歌祭に参加しているのは…是非一度寮歌祭に参加されてみては。



第25回佐賀大学 大学祭「帆船」

本校2年ぶりの大学祭となる第25回大学祭は、佐賀大学本庄キャンパスで令和4年10月29日(土)に開催いたしました。当日は晴天に恵まれ、無事にすべての日程を終えることができました。ご来場して下さった皆様、ご参加くださった各サークル団体の皆様、開催するにあたりご理解・ご協力をいただいた地域住民の皆様、開催に向けて尽力していただいた大学職員の皆様には心より感謝申し上げます。

今回の大学祭のテーマである「帆船」は、コロナウイルス蔓延により二年間開催できていない現状を打開すべく、コロナ禍で行うイベント事での楽しみ方を模索する第一歩であるという意味合いを込めつけさせていただきました。ノウハウがあまり残っていないながらも試行錯誤を繰り返し、様々な方々の協力のもとなんとか開催にこぎつけることができました。また、感染予防の一環で飲食物を取り扱った露店等の出店は制限せざるを得ませんでした。その他の露店やメインステージでの各種催し物、軽音楽サークルによるライブ、サガン鳥栖様と協力した体験型アトラクション等、できる限り参加者様が楽しんでいただける催し物を執り行いました。

学生会館前の野外メインステージでは、「ジョイマン」さん並びに「大西ライオン」さんによるお笑いライブを開催しました。老若男女幅広い世代の方がお楽しみいただけたのではないかと思います。ステージ企画ではお笑いライブ以外にも軽音サークルのライブやのど自慢、今回初の試みである巨大LEDパネルを使ったeスポーツ大会等バラエティ豊かな内容で盛り上がりを見せていました。メインストリートの露店やがばイベント（各サークル団体様による展覧会）では、飲食が制限されているなか各サークル団体様による趣向を凝らした出店により沢山の方々の楽しむ姿が見られました。また、出店を準備・運営する中での過程が経験として各サークル団体の方々にも充実感と自己の成長をもたらすものになったと確信しております。

最後になりましたが、多くの方々のご協力の上で第25回大学祭を開催することができました。改めてお礼申し上げます。来年度以降は、コロナウイルスの蔓延状況によりますが、飲食等の解禁や様々な新たな試みを行ったりと、実行委員一同精進してまいりますので、変わらぬご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第25回大学祭実行委員長 井波豪太郎



学園祭への協賛の御礼と報告

佐賀大学医学部学園祭運営委員長 山田 篤郎

拝啓 大寒の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

過日令和4年5月21日(土)5月22日(日)に佐賀大学医学部鍋島キャンパスで行われました、第3回医大祭の折り、ご支援、ご協力をお願いいたしましたところ、快くご賛同いただき、誠にありがとうございました。

お陰をもちまして、大きなトラブルや新型コロナウイルス感染症のクラスターなどが起きることなく、無事終了することができました。

また、当日の来場者数、パンフレットの配布数は以下の通りとなりました。

- ・ 来場者数 2189人（2日間合計）
- ・ パンフレット配布数 2000部（協賛社への配布含む）

数年ぶりの開催、またコロナ禍という状況にもかかわらず、非常に多くの方に来場していただき、医大祭の目的の1つである地域活性化に少しでも貢献できたのではないかと思います。さらに、こうしたイベントの開催につきましても、しっかりとした感染症対策を講じることで安全に執り行えるということが証明でき、大変意義のある学園祭であったと感じております。

これも佐賀大学同窓会様のご支援あってのことと運営委員会一同、感謝しております。メインステージでは、地域の中高生の書道パフォーマンスや吹奏楽部の演奏、ダンススクールのパフォーマンスなど地域の子供達の元気な姿や、有名アーティストによるライブ、eスポーツ大会など様々な企画により盛大なイベントとなりました。また、新型コロナウイルス感染症やHPVワクチンの講演など、医学部だからこそできる内容もお届けできたかと思います。

このような状況にも関わらず、皆様方からの絶大なるご支援、ご協力をいただきましたこと、改めて、心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご厚情とご厚誼を賜りますようお願い申し上げ、書面をもってお礼の挨拶とさせていただきます。

敬具



ホームページの閲覧を

佐賀大学同窓会ホームページを開きますと、トップページには次の言葉が目に入ります。

「たて糸と よこ糸で 織りなす佐大の人間模様」

たて糸は、『先輩後輩の繋がり』 よこ糸は『同期生の集まり』

中を開いていただきますと「佐賀大学同窓会」と「有朋会」「芸術地域デザイン学部同窓会」「楠葉同窓会」「佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会」「理工学部同窓会（菱実会）」「農学部同窓会」6つの学部同窓会の様々な活動の様子が記されています。是非ご覧になってください。

(ホームページ) <http://sadai.jp/alumni/>

佐賀大学同窓会・佐賀大学の動き（令和4.7～令和5.3）

- | | |
|---|--|
| <p>7.1 佐賀大学同窓会会報誌「楠の葉」（第37号）発行
（会報誌は会員へ郵送）</p> <p>7.5 佐賀大学同窓会「三者打合せ会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>7.12 佐賀大学同窓会「会報発行部会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>7.19 佐賀大学同窓会「情報管理部会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>8.10 佐賀大学 オープンキャンパス</p> <p>9.12 佐賀大学同窓会「三者打合せ会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>9.16 佐賀大学同窓会「臨時代表役員会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>9.23 ☆西九州新幹線（武雄温泉～長崎間）開通</p> <p>10.4 佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>10.7 青春寮歌祭に向けての練習
／菱の実会館（多目的室）（10/7・10/21・11/9
の計3回）</p> <p>10.14 佐賀大学同窓会「第3回代表役員会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>10.18 佐賀大学同窓会「会報編集委員会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>10.20 佐賀大学同窓会「秋期定例委員会」
／菱の実会館（多目的室）</p> | <p>11.5 佐賀大学ホームカミングデー
／佐賀大学教養教育大講義室</p> <p>11.19 ☆第30回佐賀県青春寮歌祭
／佐賀市交流センター「エスプラッツホール」</p> <p>11.29 佐賀大学同窓会「情報管理部会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>12.5 佐賀大学同窓会「三者打合せ会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>12.7 佐賀大学同窓会「庶務部会」
／菱の実会館（小会議室）</p> <p>12.8 佐賀大学同窓会「第4回代表役員会」
／菱の実会館（多目的室）</p> <p>（令和5年）</p> <p>1.1 佐賀大学同窓会会報誌「楠の葉」（第38号）発行
（ホームページでの閲覧）</p> <p>1.14～15 大学入学共通テスト</p> <p>2.10 佐賀大学同窓会「第5回代表役員会」
／菱の実会館（多目的室）（予定）</p> <p>2.25～26 佐賀大学（前期日程）入学試験</p> <p>3.12～13 佐賀大学（後期日程）入学試験</p> <p>3.24 令和4年度佐賀大学学位記授与式
／佐賀市文化会館（予定）</p> <p>※佐賀大学同窓会支部会（県外）及び地区会（県内）は、
新型コロナ禍の影響で全て中止された。</p> |
|---|--|

佐賀大学同窓会報誌「楠の葉」の発行について

会報誌は年に2回発行しています。1回（7月1日発行）は同窓会会員に配付しますが、もう1回（1月1日発行）はホームページでの閲覧となります。会報誌は佐賀大学同窓会の様々な活動が掲載されていますので、是非ご覧ください。



ご意見メール等募集

同窓会や会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受け付けております。

名前・住所変更等 ご連絡のお願い

住所変更、お問い合わせ等がありましたら、佐賀大学同窓会ホームページ「住所変更・お問い合わせはこちら」からお知らせください。

Tel : 0952-23-1253 Fax : 0952-25-5700 E-mail : dousoukai@sadai.jp

